



報道関係者 各位

令和元年10月1日(火)

【照会先】

大分労働局職業安定部

部長 越橋 健太郎

労働市場情報官 川野 剛

電話 097-535-2090(内線313)

大分県の雇用情勢(令和元年8月分)

○ 有効求人倍率 「1.52倍」(前月比0.02P低下)

- ・ 2カ月ぶりに低下したが、1.5倍台の高い水準を維持
- ・ 正社員有効求人倍率 前年同月比0.01P低下し1.22倍
(九州ブロックで20か月連続1位)

- ・ 県内の雇用情勢は、着実に改善が進んでいる。
- ・ 有効求人倍率(季節調整値)は、前月(1.54倍)を0.02ポイント下回り、2カ月ぶりに低下したが、1.5倍台の高い水準を維持。
- ・ 有効求人倍率(季節調整値)は、平成27年2月から55か月連続で1.0倍以上。
- ・ 有効求人数(季節調整値)は、前月比0.1%増と2か月連続の増加。
- ・ 有効求職者数(季節調整値)は、前月比0.9%増と4か月連続の増加。
- ・ 正社員有効求人倍率(原数値)は、前年同月比0.04ポイント下回り2か月連続の低下。
- ・ 就業地別有効求人倍率(季節調整値)は、前月比0.01ポイント下回り4か月連続の低下。
(※平成30年12月以前の季節調整値は、新季節指数により改訂されています。)

1. 求人倍率の状況

- (1) 8月の有効求人倍率(季節調整値)は、有効求人数(同)が27,181人と前月に比べ0.1%増加し、有効求職者数(同)は17,833人と前月に比べ0.9%増加となったことから、前月を0.02ポイント下回る**1.52倍**となりました。(昭和38年1月から集計)
- (2) 正社員有効求人倍率(原数値)は、前年同月を0.04ポイント下回る**1.22倍**となったが、平成29年6月から27か月連続の1倍台を維持しました。(平成17年4月から集計)
- (3) 就業地別有効求人倍率(季節調整値)は、前月比0.01ポイント下回る**1.68倍**となり、4か月連続で低下しました。(平成17年2月から集計)

2. 求人の状況

新規求人数(原数値)は8,873人と前年同月比で**9.4%減少**しました。

これを主要産業別で見ますと、建設業(6.3%)、生活関連サービス業、娯楽業(5.4%)、医療、福祉(1.0%)で増加となり、卸売業、小売業(▲23.9%)、製造業(▲18.9%)、情報通信業(▲16.1%)、サービス業(▲13.9%)、運輸業、郵便業(▲13.8%)、宿泊業、飲食サービス業(▲10.1%)で減少となりました。

3. 求職の状況

新規求職申込件数(原数値)は3,933人と前年同月比で**9.6%減少**しました。

このうち常用フルタイム新規求職者数(同)は2,488人と前年同月比で9.9%減少しました。

内訳は、在職者889人(▲12.7%)、離職者1,477人(▲6.5%)、無業者122人(▲26.1%)となっています。

離職者を離職理由別にみますと、事業主都合290人(27.2%)、自己都合1,127人(▲11.5%)となりました。

4. ハローワーク別有効求人倍率の状況

ハローワーク別の有効求人倍率(原数値)をみますと、最高は大分所の1.75倍(前月:1.73倍)、最低は別府所1.16倍(前月:1.21倍)となりました。

5. 雇用保険受給者の状況

雇用保険受給者実人員については、4,908人と前年同月比で**0.5%増加**しました。